

サステナブルな美濃和紙

世界の製紙業界では、森林伐採や化学物質汚染など、環境に与える影響が課題の一つとなっています。和紙には急成長中の天然素材が使われていて、環境への負荷が比較的少なくなっています。

本美濃紙は伝統的な化学薬品不使用の方法を使って、1,000 年以上の間ほとんど変わらない道具と工程で作られています。

低負荷の工程と天然素材

製紙用パルプの制作に用いられる主な低木は須楮（こうぞ（カジノキ）、ミツマタ、そして雁皮（アオガンピ属の低木）で、いずれも成長周期が短いものです。須楮（こうぞ）は一年生作物で、ミツマタと雁皮は 3 年で成木になります。製紙工程はまず、植物灰とソーダ灰（炭酸ナトリウム）を入れた湯で白皮を煮て柔らかくすることから始まります。これらの物質のいずれも水域の生態系に悪影響を及ぼすことはありません。

和紙制作におけるもう一つの主要素材は、とろろあおい（黄蜀葵）の根から抽出される粘着物質、ねべしです。ねべしは、水とパルプ状になった白皮繊維に混ぜて、繊維が水中で均一に広がり、塊にならないようにするためのものです。専門の栽培者がとろろあおいをふやけさせて、根の成長を促します。和紙職人の数が年々減少する中、このような原料のサプライヤーの数も減少しています。

和紙職人の維持

本美濃紙を作っている和紙職人はわずか 6 人です。紙漉きは繰り返し行う作業で、身体的にも負担が大きいので、若い後継者の確保が大きな課題となっています。和紙職人が減るということは、制作工程で用いられる専用の道具や設備の需要も減ることを意味しています。美濃和紙の里会館では、和紙職人を志す方々のための 1 か月コースを用意しており、本美濃紙職人による見習いの受け入れも行われています。